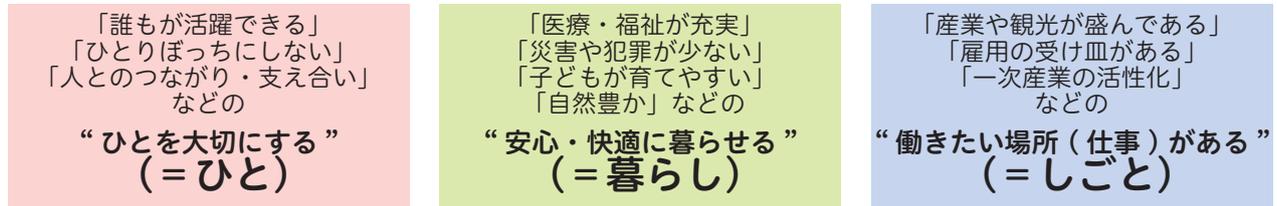


4 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿

◆県民の皆さんから頂いた意見の分析

県民の皆さんから頂いたふくしまの将来の姿についての意見を県づくりの理念に沿って見ると、大きく次の3つに集約できます。



県民の皆さんから頂いた意見から導き出した「ひと」「暮らし」「しごと」の3つの側面は、相互に関連性があり、相乗効果がある場合もあれば、相反する関係にある場合もあります。

大事なものはバランス（調和）を取りながらこの3つを伸ばしていくことです。

これらを総じて、本県の将来の姿として、

“「ひと」「暮らし」「しごと」が調和しながらシンカ（深化、進化、新化）する豊かな社会”
 を、皆さんと目指してまいります。

◆「ひと」「暮らし」「しごと」ごとの将来の姿の全体像

「ひと」（＝ひとを大切にする）

- ▶ 誰もが生涯を通じて健康で、人とのつながりを大切にしながら、いきいきと暮らしている
- ▶ （復興）県民健康調査や、被災者の状況に応じた支援などにより、県民の健康の維持、増進及び不安解消が図られている
- ▶ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境が整っている
- ▶ 子どもたちが多様な個性をいかしながら、健やかに育つ教育環境と安全・安心な居場所が確保されている
- ▶ 援助を必要としている人それぞれの状況に応じた相談・支援体制が充実し、一人一人が個人として尊重されている
- ▶ 本県の魅力や情報の発信により、福島とつながりを持つ人々が増加し、福島への新たな人の流れが増えている

「暮らし」（＝安心・快適に暮らせる）

- ▶ （復興）避難地域において、医療、教育、交通などの生活環境の整備が進んでいる
- ▶ （復興）放射線や放射能に関する正しい知識が普及し、風評払拭が進んでいる
- ▶ 災害に対するハード・ソフト両面からの備えが進み、災害に強い地域づくりが進んでいる
- ▶ 犯罪や人権侵害への対策が十分とられ、防犯・防火活動や交通安全活動が活発に行われる安全と安心が守られた地域社会となっている
- ▶ 安全・安心の医療提供体制が確保され、介護・福祉サービスが充実している
- ▶ 脱炭素社会や循環型社会の実現に向けた取組が進み、生物多様性や美しい自然環境が保全されている
- ▶ 人口減少にあっても地域資源を活用した取組により過疎・中山間地域も持続的に発展している
- ▶ 中心市街地の活性化、文化・芸術・スポーツ活動の振興や住民主役のまちづくりなど、暮らしの豊かさを実感できる地域づくりが進んでいる

「しごと」（＝働きたい場所（仕事）がある）

- ▶ 中小企業を中心に県内の地域産業が成長・発展している
- ▶ （復興）福島イノベーション・コースト構想の進展により、地域産業の活性化と新産業の集積・育成が進み、構想を担う人材の確保・育成も進んでいる
- ▶ 農林水産業が他産業並の所得を安定的に確保している
- ▶ 再生可能エネルギー等の利活用や、関連産業の育成・集積が進んでいる
- ▶ 県内の観光地に国内外から多くの観光客が訪れている
- ▶ 地域の産業を支える人材が確保・育成されている
- ▶ 利便性が高くバランスの取れた交流・物流網や情報網が整備されている

将来の姿

「ひと」「暮らし」「しごと」が調和しながら
シンカ（深化、進化、新化）する豊かな社会



イメージイラストのコンセプト

県土から伸びる木の幹から分かれる枝葉（＝ひと、暮らし、しごと）がそれぞれ大きく育ち、重なり合う部分（＝調和）が色濃く育っています。

木は県土に深く根を張り（＝深化）、幹と枝葉を大きくし（＝進化）、日々新たな枝葉が芽生えています（＝新化）。

(参考)「県のスローガン」と総合計画(県づくりの理念、基本目標等)の関係性

